

7月報告書

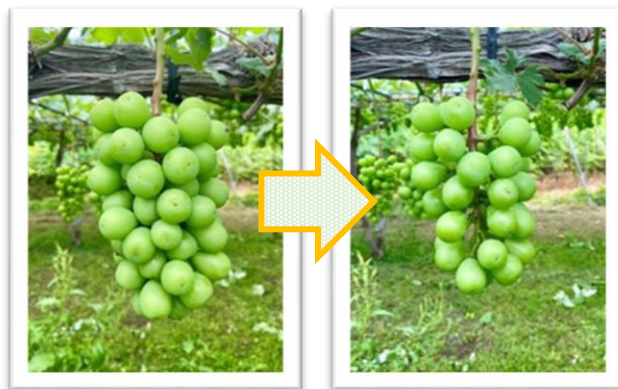
常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

摘粒

摘粒は房の形を決めるとても重要な作業の1つ。1房にすべての実をつけてしまうと粒同士が押し合って潰れてしまうため、房の中に潜り込んでいる粒や下向き上向きの粒をハサミで切り落とす。粒がまだ小さい状態の時に、大きくなることを想像しながら切るので、ぶどう栽培の中で最も難しく神経を使う作業。

摘粒が上手な人のつくるぶどうは芸術作品のような綺麗な見た目に仕上がる。



袋掛け

病虫害予防のために袋をかけた。口をしっかりと閉めないと虫が入ってきてしまうので、緩くならないように気をつけた。

袋は白や透明、窓付きなど様々な種類があって品種ごとに使い分けた。



活動を行った感想など

摘粒はこの1粒を切るかどうか悩んで時間がかかってしまった。切りすぎかなと思ったところもあったが、大きくなった出来を見てちょうど良い粒がまとまった房になっていたので安心した。

収穫したぶどうにカイガラムシがついている房があった。おそらく袋をかけた後に閉め口から入ったと思われるので、もう少しキツく締めることを心がけて袋をかけるようにする。

※カイガラムシは、貝殻を背負ったような見た目をしている。カメムシの仲間、植物の汁を吸って葉や枝をダメにしてしまう。

今後の目標など

7月末から経営スタートアップ講座が始まった。今までなんとなくこういう経営がしたいという理想はあったが、講座を通して会社の経営理念を具体的に考え、それを言語化したり、ケーススタディや中期目標の立て方を学んだりして、独立後の経営をする上でとても重要な勉強をすることができた。

最終的に経営計画書を書いてプレゼンテーションで発表するので、それに向けて受講や課題提出をしていく。

